

蠟梅 Now

年が明けて間もなく、仏週刊誌シャルリ・エブドに暴漢が乱入して 12 人を射殺。ムハンマドの風刺画が直接の引き金とされている。そしてほどなく、日本人二人がイスラム国に拘束され、一名は殺害され、もう一名にも身の危険が迫っている。

この二つの事件に象徴されるのが、イスラム過激派によるテロの拡大である。背景には、欧米社会における移民排斥、特にイスラム教徒の移民への制限を求める流れがある。欧米社会にみられる微妙な均衡の下で成り立っている多文化の混在に、綻びが表面化しつつあるように思われる。

かかる事象に縁が薄いと思われる日本に墨が及んだことに戸惑いを感じざるを得ない。イスラム国の思惑を類推するにとどまるが、日本特有とも言える外交音痴的は感受性のせいなのだろうか。

言論の自由、正当性には大なり小なり、関わるものの価値観が異なることにより、認識にずれが生じる。だが、まず、イスラム過激派の暴力は許されない。暴力による解決は、その連鎖による拡大こそあれ、安息が得られる収束に結び付かないことは真理と言える。

不寛容を前にしても可能な限り寛容を保たなければ他者との共存を実現することはできない。テロは排除しなければならないからこそ、排除する側は文化と価値の多元性を受け入れ、維持する必要がある。無秩序であってはならないが。

フェニックスの如く、がんばろう 日本！

閑話休題。

当法人のシンボルツリー「蠟梅」は昨シーズン同様、1 月も最後の週に入って開花したようである。まだ、2~3 輪ではあるが。年末の開花が続いた過去数年間からの変化に何が影響しているのか計り知れないところがある。

ともあれ、ことなく開花が始まり、続いて控えの蕾にも伝播し、ほどなく馥郁とした香りを漂わせることであろう。自然界に潤いの少ない時期の開花は、清楚ではあるが、殺伐とした事象の少なくない社会に光明をもたらす一服の清涼剤ともいえる。

実生に成功した蠟梅 2 世は順調に成長しており、誕生した西神から筆者宅のバルコニーに昨夏引っ越してきた一株は今、すっかり落葉して骨格だけになっている。無事の越年に続きたくましく越冬することを願う。



《発行者》

特定非営利活動法人 未来技術フォーラム神戸
事務局長 大森 信
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 2-2-4
TEL&FAX : 050-2014-2293 (IP Phone)
E-mail : info@npo-ftfk.or.jp
URL : <http://www.npo-ftfk.or.jp>